

平年収量が増減する都道府県の生産事情

(詳 細 版)

平成22年 3 月16日

農林水産省統計部

(神 奈 川 県)

1 品種構成の動向

主力品種の「キヌヒカリ」を中心とし、近年、「祭り晴」が減少する一方、良食味で収量水準の高い「さとじまん」がやや増加する傾向にある。

2 栽培技術等の動向

品質の向上に向け地域に応じた適切な肥培管理や適期収穫の指導がなされている。

3 温暖化の影響

近年は、田植期が横ばいで推移しており、出穂期及び登熟期間の最低気温（夜温）も横ばいとなっている。

また、近年の登熟（千もみ当たり収量）もおおむね安定しており、登熟にとってマイナスの影響は見られない。

＜最近の作柄（平成15年産以降）＞

年次	全もみ数	登熟	被害	作況指数		一等米比率
				9/15	最終	
H15	×	—	×	96	96	15
16	○	○	○	104	106	47
17	—	○	○	103	104	22
18	×	×	×	96	97	24
19	—	—	○	101	101	10
20	○	—	○	102	104	23
21	×	◎	—	100	102	32(1月末)

注：◎：良（多い） ○：やや良（やや多い） —：平年並み
×：やや不良（やや少ない） ××：不良（少ない）
ただし、被害は◎：少ない ○：やや少ない —：平年並み
×：やや多い ××：多い

4 収量水準の動向

「さとじまん」の作付面積割合の増加及び「さとじまん」の収量が栽培技術の向上により上昇していることから県全体の収量水準は上昇している。

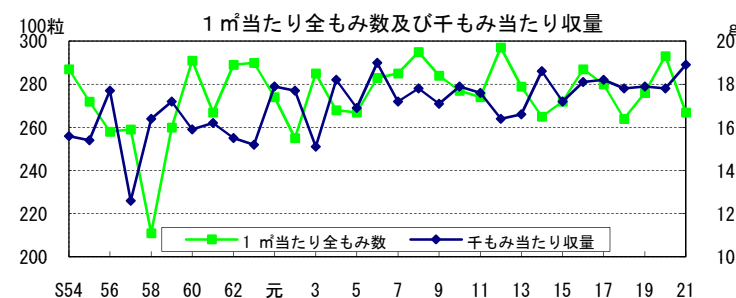
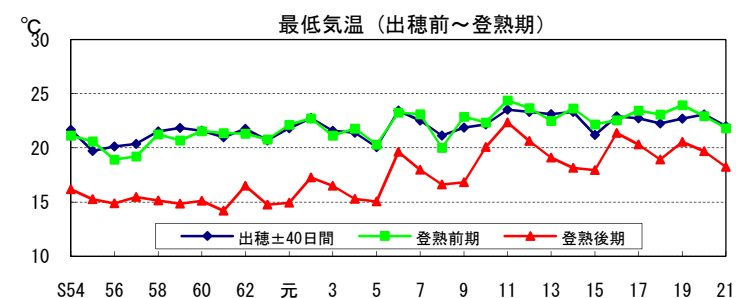
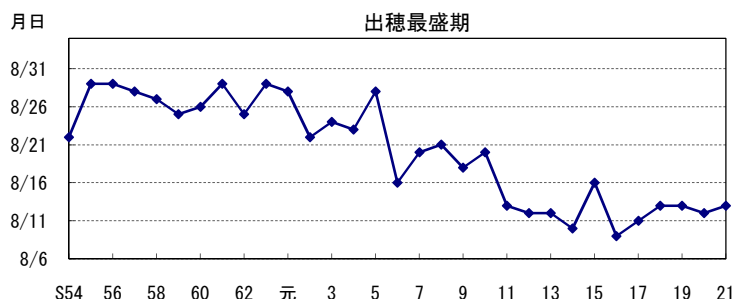
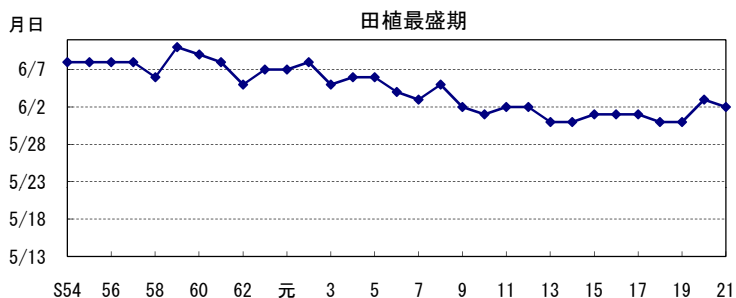
＜品種別・地域別作付面積の動向による単収水準の推移＞

主な品種名	(参考) 10a当たり 収量水準 (kg)	年次別作付面積割合 (%)					
		H17	H18	H19	H20	H21	H22 (見込)
キヌヒカリ	486	72.1	70.1	66.3	67.2	67.1	67.1
さとじまん	548	1.7	13.4	13.4	16.8	17.2	17.3
コシヒカリ	448	7.4	6.5	6.5	7.1	6.8	6.8
祭 り 晴	481	9.5	5.8	4.4	0.0	0.0	—
単収水準の動向（前年との差）					2.3	0.4	0.1

地域（地帯）名	(参考) 10a当たり 収量水準 (kg)	年次別作付面積割合 (%)					
		H17	18	19	20	21	22 (見込)
横浜	478	35.2	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
平塚	497	64.8	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0
単収水準の動向（前年との差）					0.0	0.0	0.0

※ 10a当たり収量水準は最近7か年のうち、豊凶2か年を除く5か年平均
平成22年産見込は市町村別の需要量に関する情報及び種子の予約数量から推計

＜田植期、出穂期、最低気温、もみ数及び登熟の推移＞



(大 阪 府)

1 品種構成の動向

主力品種の「ヒノヒカリ」を中心とし、近年、「祭り晴」が減少する一方、良食味で収量水準の高い「きぬむすめ」が増加する傾向にある。

2 栽培技術等の動向

安定生産、品質改善等を重点方向として、品種別、地域別に適地作、適期移植、合理的施肥等の指導が行われている。

3 温暖化の影響

近年は、田植期が横ばいで推移しており、出穂期及び登熟期間の最低気温（夜温）も横ばいとなっている。

また、近年の登熟（千もみ当たり収量）もおおむね安定しており、登熟にとってマイナスの影響は見られない。

＜最近の作柄（平成15年産以降）＞

年次	全もみ数	登熟	被害	作況指数		一等米比率
				9/15	最終	
H15	×	—	×	98	98	69
16	◎	—	○	105	105	76
17	—	—	○	101	101	73
18	×	—	—	99	99	74
19	—	—	○	100	100	66
20	○	—	○	103	103	56
21	—	—	○	99	100	63(1月末)

注：◎：良（多い） ○：やや良（やや多い） —：平年並み
×：やや不良（やや少ない） ××：不良（少ない）
ただし、被害は◎：少ない ○：やや少ない —：平年並み
×：やや多い ××：多い

4 収量水準の動向

収量水準の高い「きぬむすめ」の作付面積割合が高まっていることから収量水準は上昇している。

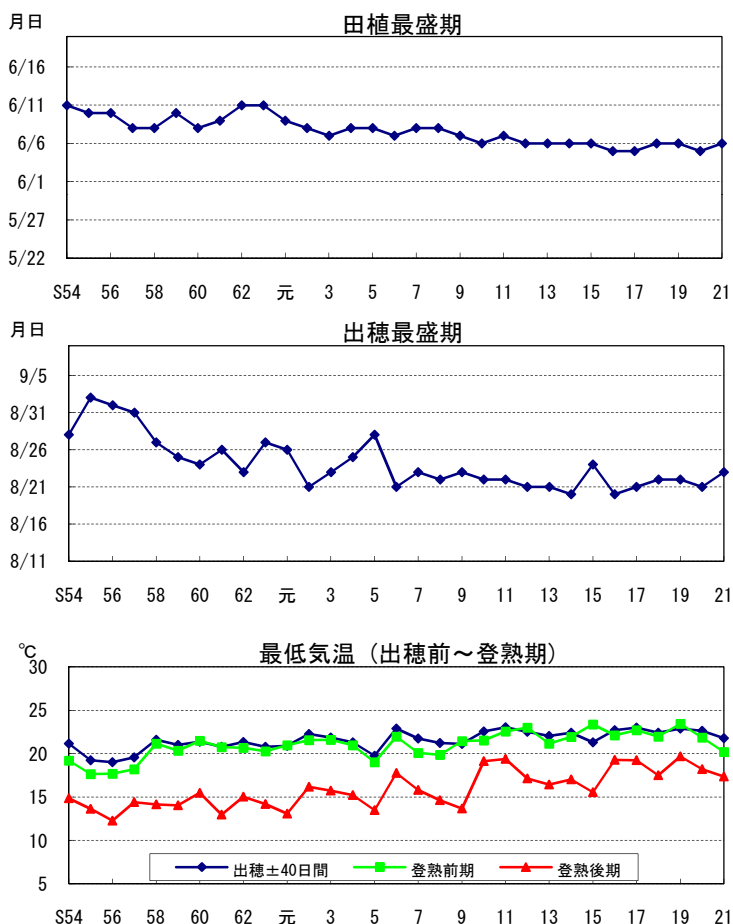
＜品種別・地域別作付面積の動向による単収水準の推移＞

主な品種名	(参考) 10a当たり 収量水準 (kg)	年次別作付面積割合 (%)					
		H17	18	19	20	21	22 (見込)
ヒノヒカリ	502	53.0	56.0	59.0	60.3	61.3	62.3
キヌヒカリ	503	15.0	15.0	16.0	14.2	14.4	14.6
祭り晴	506	19.0	16.0	14.0	11.7	1.6	1.5
きぬむすめ	522	—	—	—	—	10.2	13.1
単収水準の動向（前年との差）					△ 0.1	1.9	0.5

地域（地帯）名	(参考) 10a当たり 収量水準 (kg)	年次別作付面積割合 (%)					
		H17	18	19	20	21	22 (見込)
高収量地域	500	49.4	49.6	49.6	50.5	50.8	50.5
中収量地域	495	29.5	29.6	29.6	30.2	30.6	30.7
低収量地域	488	21.1	20.8	20.7	19.3	18.6	18.8
単収水準の動向（前年との差）					0.1	0.1	0.0

※ 10a当たり収量水準は最近7か年のうち、豊凶2か年を除く5か年平均
平成22年産見込は市町村別の需要量に関する情報及び種子の予約数量から推計

＜田植期、出穂期、最低気温、もみ数及び登熟の推移＞



(和 歌 山 県)

1 品種構成の動向

主力品種の「キヌヒカリ」が減少する一方、良食味で収量水準の高い「ヒノヒカリ」がやや増加する傾向にある。

2 栽培技術等の動向

品質の向上に向け適期防除・適期収穫・早期落水防止等の指導がなされている。

3 温暖化の影響

近年は、田植期が横ばいで推移しており、出穂期及び登熟期間の最低気温（夜温）も横ばいとなっている。

また、近年の登熟（千もみ当たり収量）もおおむね安定しており、登熟にとってマイナスの影響は見られない。

＜最近の作柄（平成15年産以降）＞

年次	全もみ数	登熟	被害	作況指数		一等米比率
				9/15	最終	
H15	×	×	×	97	97	26
16	—	—	×	101	100	34
17	×	○	—	100	100	43
18	×	×	×	94	93	38
19	×	—	×	96	96	34
20	—	○	○	102	102	32
21	×	○	—	100	100	39(1月末)

注：◎：良（多い） ○：やや良（やや多い） —：平年並み
×：やや不良（やや少ない） ××：不良（少ない）
ただし、被害は◎：少ない ○：やや少ない —：平年並み
×：やや多い ××：多い

4 収量水準の動向

収量水準の高い「ヒノヒカリ」の作付面積割合が高まっていることから収量水準は上昇している。

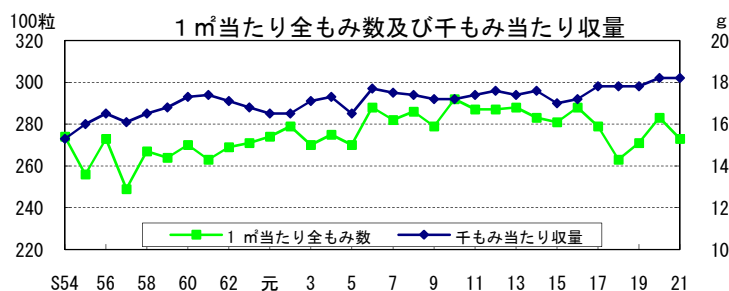
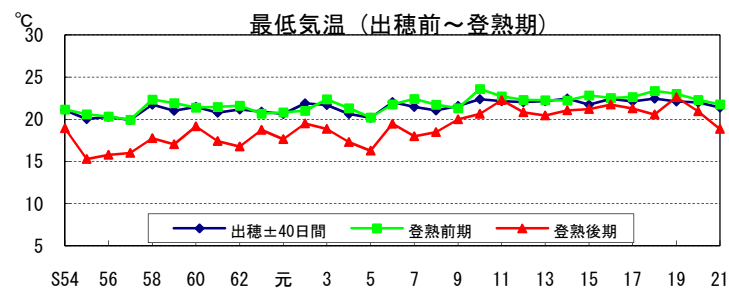
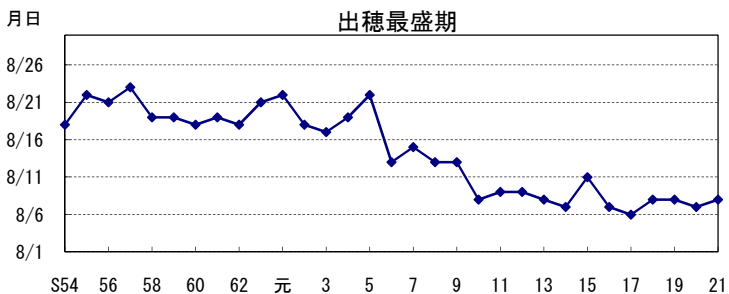
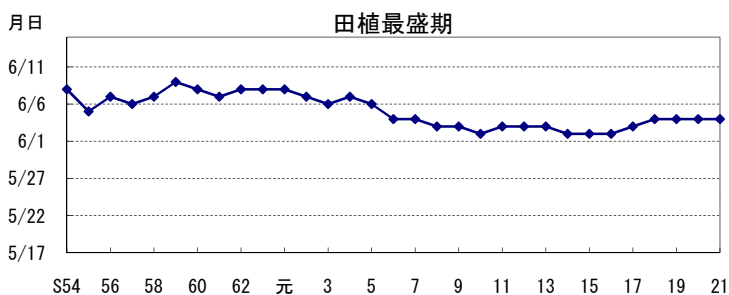
＜品種別・地域別作付面積の動向による単収水準の推移＞

主な品種名	(参考) 10a当たり 収量水準 (kg)	年次別作付面積割合 (%)					
		H17	H18	H19	H20	H21	H22 (見込)
キヌヒカリ	492	52.5	53.3	46.6	43.8	42.6	41.1
イクヒカリ	504	—	0.0	6.7	10.5	10.5	10.5
コシヒカリ	464	11.1	10.8	10.5	10.2	9.8	9.2
ヒノヒカリ	519	7.3	7.6	8.4	8.4	9.0	10.8
日本晴	521	7.5	7.1	6.5	6.2	5.9	5.2
単収水準の動向（前年との差）					0.6	0.1	1.3

地域（地帯）名	(参考) 10a当たり 収量水準 (kg)	年次別作付面積割合 (%)					
		H17	18	19	20	21	22 (見込)
高収量地域	496	70.2	70.4	70.8	71.0	70.8	71.0
低収量地域	450	29.8	29.6	29.2	29.0	29.2	29.0
単収水準の動向（前年との差）					0.1	△ 0.1	0.1

※ 10a当たり収量水準は最近7か年のうち、豊凶2か年を除く5か年平均
平成22年産見込は市町村別の需要量に関する情報及び種子の予約数量から推計

＜田植期、出穂期、最低気温、もみ数及び登熟の推移＞



(長 崎 県)

1 品種構成の動向

主力品種の「ヒノヒカリ」への集中を回避するため、良食味で収量水準の高い「にこまる」が増加する傾向にある。

2 栽培技術等の動向

品質に加え食味に重点を置いた栽培指導（適切な肥培管理等）や、温暖化の進行に対応するための遅植えの指導が行われている。

3 温暖化の影響

遅植えの指導もあり、平成17年頃から田植期が遅くなる傾向にあるものの、出穂期に大きな変化は見られない。

一方、登熟期の最低気温は上昇傾向で推移しており、一等米比率は低迷している。

しかし、近年の登熟（千もみあたり収量）はおおむね横ばいとなっていることから、収量への影響は明確ではない。

<最近の作柄（平成15年産以降）>

年次	全もみ数	登熟	被害	作況指数		一等米比率
				9/15	最終	
H15	×	×	×	97	96	34
16	○	×	×	99	91	25
17	○	×	×	100	95	19
18	×	×	×	89	68	22
19	○	×	—	101	100	20
20	○	—	—	102	101	6
21	×	○	—	99	101	28(1月末)

注：◎：良（多い） ○：やや良（やや多い） —：平年並み
×：やや不良（やや少ない） ××：不良（少ない）
ただし、被害は◎：少ない ○：やや少ない —：平年並み
×：やや多い ××：多い

4 収量水準の動向

収量水準の高い「にこまる」の作付面積割合が高まっていることから収量水準は上昇している。

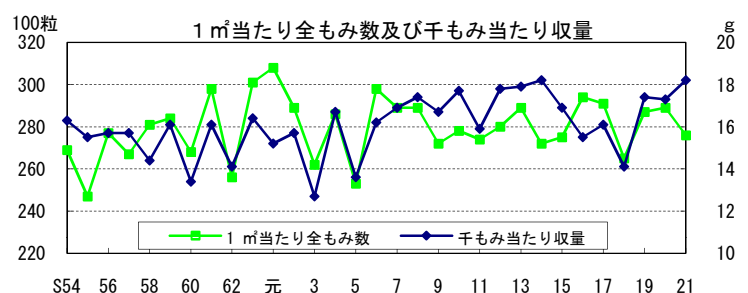
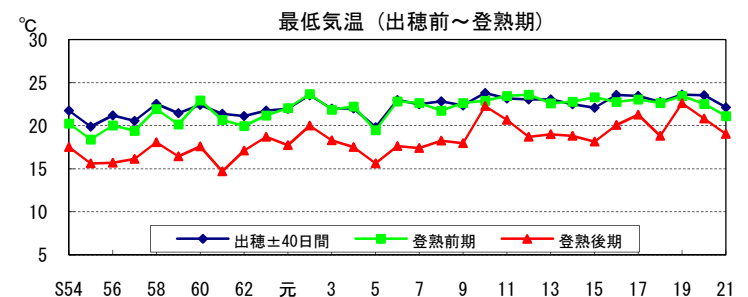
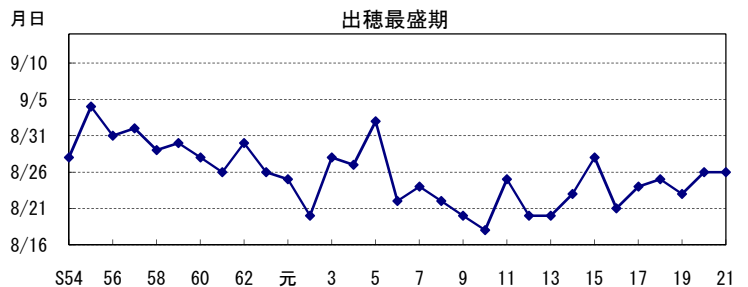
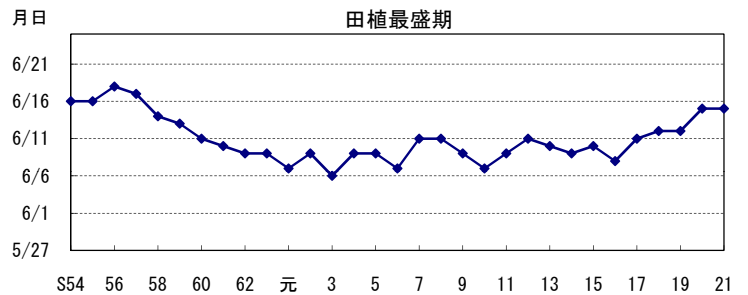
<品種別・地域別作付面積の動向による単収水準の推移>

主な品種名	(参考) 10a当たり 収量水準 (kg)	年次別作付面積割合 (%)					
		H17	18	19	20	21	22 (見込)
ヒノヒカリ	487	72.7	71.7	71.9	72.0	67.0	66.6
コシヒカリ	437	16.5	17.9	16.2	15.4	15.3	15.2
にこまる	552	—	2.4	3.1	5.4	9.6	12.9
単収水準の動向（前年との差）					2.2	3.0	2.4

地域（地帯）名	(参考) 10a当たり 収量水準 (kg)	年次別作付面積割合 (%)					
		H17	18	19	20	21	22 (見込)
西彼	462	5.1	4.8	4.8	4.9	4.9	4.9
東南部	476	40.5	39.7	39.7	39.7	39.9	39.9
県北	449	36.5	37.4	37.4	38.4	38.1	38.1
五島	396	6.4	6.4	6.4	5.5	5.6	5.6
杬岐・対馬	437	11.5	11.7	11.7	11.5	11.5	11.5
単収水準の動向（前年との差）					0.5	0.0	0.0

※ 10a当たり収量水準は最近5か年のうち、豊凶2か年を除く3か年平均
平成22年産見込は市町村別の需要量に関する情報及び種子の予約数量から推計

<田植期、出穂期、最低気温、もみ数及び登熟の推移>



（ 宮 崎 県 ）

1 品種構成の動向

主力品種の「ヒノヒカリ」が減少する一方、良食味で収量水準の高い「まいひかり」がやや増加する傾向にある。

2 栽培技術等の動向

土壌診断に基づく適正施肥等の指導が行われている。また、近年においては、病害の拡大を抑制するため、種子消毒及び箱施薬の確実な実施等防除体制が強化されている。

3 温暖化の影響

近年は、出穂期及び登熟期間の最低気温（夜温）も横ばいとなっている。

また、近年の登熟（千もみ当たり収量）もおおむね安定しており、登熟にとってマイナスの影響は見られない。

＜最近の作柄（平成15年産以降）＞

年次		全もみ数	登熟	被害	作況指数	一等米比率
					最終	
H15	早期	×	×	×	93	65
	普通期	×	○	×	98	
16	早期	◎	—	◎	109	43
	普通期	○	×	×	86	
17	早期	◎	×	○	105	42
	普通期	×	×	×	91	
18	早期	—	—	—	100	42
	普通期	×	—	×	91	
19	早期	—	×	×	43	16
	普通期	×	○	—	99	
20	早期	—	◎	◎	106	44
	普通期	○	×	○	102	
21	早期	◎	—	◎	109	72(1月末)
	普通期	×	◎	—	101	

注：◎：良（多い） ○：やや良（やや多い） —：平年並み
 ×：やや不良（やや少ない） ××：不良（少ない）
 ただし、被害は◎：少ない ○：やや少ない —：平年並み
 ×：やや多い ××：多い

4 収量水準の動向

収量水準の高い「まいひかり」の作付面積割合が高まっていること、早期米（「コシヒカリ」）の収量が病虫害防除対策の推進等により上昇傾向となっていることから収量水準は上昇している。

＜品種別・地域別作付面積の動向による単収水準の推移＞

主な品種名	(参考) 10a当たり 収量水準 (kg)	年次別作付面積割合 (%)					
		H17	18	19	20	21	22 (見込)
コシヒカリ	499	42.1	42.6	42.4	42.2	42.4	42.2
さきひかり	608	0.2	0.4	0.5	0.4	0.2	0.6
ヒノヒカリ	509	53.1	52.6	51.9	51.7	51.1	50.2
まいひかり	618	—	0.4	1.4	1.8	2.6	3.4
単収水準の動向（前年との差）					0.4	0.7	1.4

地域（地帯）名	(参考) 10a当たり 収量水準 (kg)	年次別作付面積割合 (%)					
		H17	18	19	20	21	22 (見込)
高収量地域	505	26.1	25.6	25.6	25.4	25.3	25.7
中収量地域（普通）	468	31.1	30.7	30.9	31.5	31.3	30.7
中収量地域（早期）	482	16.7	17.2	17.0	16.8	17.1	17.2
低収量地域	477	26.1	26.5	26.5	26.3	26.3	26.4
単収水準の動向（前年との差）					△ 0.1	0.0	0.2

※ 10a当たり収量水準は最近7か年のうち、豊凶2か年を除く5か年平均
 平成22年産見込は市町村別の需要量に関する情報及び種子の予約数量から推計

＜最低気温、もみ数及び登熟の推移＞

